

議会だより

平成26年 9 月

No.80

あっさぶメシ

題字は、厚沢部保育所 たんぽぽ組の澤口尚槻くんです。



7月26日(土)大勢の人でにぎわった「ふるさと夏まつり」
写真は、特産マークインを使用した巨大コロッケ



STOP!! ジャガイモシストセンチュウ

～日本一のブランド「あっさぶマークイン」を守ろう!～



議会改革推進特別委員会を設置

平成26年第2回定例会が6月17日招集され、補正予算、条例等18件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

議長発議

●議会改革推進特別委員会の設置

議会改革に関する方策や課題について、様々な分野から必要な事項を調査・研究し、議会改革を積極的に推進するために設置するものです。

発議

●厚沢部町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定

議員定数が12人から10人に減少することに伴い、各委員会の構成人数を次のように変更しました。

総務文教常任委員会

6人↓5人

補正予算

産業厚生常任委員会

6人↓5人

(適用は次回一般選挙後)

一般会計

歳入歳出それぞれ8275万7千円を追加し、総額38億7551万8千円となりました。

追加補正された主なものは次のとおりです。

●一般コミュニティ助成事業費補助金 (190万円)

●LED街路灯整備費補助金 (3388万5千円)

●女性支援のためのがん検診推進事業委託料 (168万2千円)

●簡易水道事業特別会計繰出金 (3027万7千円)

●地域人づくり事業委託料 (342万円)

●プレミアム商品券発行事業費補助金 (900万円)

●文化遺産を活かした素敵な過疎のまちづくり推進協議会事業費補助金 (178万2千円)

●体育施設管理用備品購入費 (179万3千円)

質疑応答 (要旨のみ)

いきます。
5 調査は町内会にお願いします。

問 LED整備について
1 街路灯に係る町内会の負担は

2 過疎債の算定の考え方は
3 全ての街路灯が整備更新
できるのか

4 公共施設の整備計画は
5 LED街路灯設置場所の
調査は

答 1 LED化で抑えられた料金を、3年間一定額負担していた。計画であり、26年度の町内会の負担は総額で約100万円となります。

2 整備費の見積りは5200万円、補助金は1800万円、差し引き3300万円の持ち出しの内3000万円の過疎債と考えています。

3 電気業者に確認しており、北電に届けている本数全てが整備できます。

4 役場庁舎は、昨年度事務室他、使用頻度の高い所を整備し、今年度は教育委員会事務所等を、順次進めて

問 保健師修学資金貸付金の内容及び付帯条件は

答 対象者は1名で、貸付条
例に従い月2万円、当町で2
年間従事すれば返還金は免除
されます。

問 プレミアム商品券発行事業の内容について

1 実施時期、販売時間等は
2 一世帯あたりの販売上限、
販売方法、使用店舗は
3 町内商工業者への経済効果は

答 1 7月中旬から下旬に
前回同様18時から3か所で
販売予定です。

2 1万3千円相当を1組とし、1万円で販売します。
3 組が上限です。昨年は72
事業者が参加しており、今年
度もAコープ2店が入ります。

3 商工会より商店・小規模
事業者の振興ということで
要請を受けたもので、町内で
総額3900万円の消費が確保
されます。

問 オートキャンプ場管理費の財源充当について

答 26年度に入ってから、観光
目的に限定した寄附金100
万円がありました。これを活用
させてもらい、当初予定して
いた一般財源を100万円減額
しました。

問 地域人づくり事業の内容について

答 地域社会や産業のニーズ
に即戦力となる人材の育成、
雇用の確保、就業支援、また
販路拡大等に係る事業者の取
組みを支援します。

簡易水道会計

道道城丘江差線本町、松園
地内水道管新設工事費等で3
027万7千円を追加し、総額
1億3091万7千円となりました。

質疑応答 (要旨のみ)

問 道道城丘江差線本町、松園地内水道管新設工事の内容は(完成時期、農家へのメリットは)

答 100ミリの水道管を140メートル新設、28年度で
完成です。農協から野菜洗浄
用に水道水を使いたいという
話はまだありません。

計画

●厚沢部町過疎地域自立促進
市町村計画の変更
過疎債の申請予定事業を追加
しようとするものです。

規約

●北海道市町村総合事務組合
規約の変更

●北海道町村議会議員公務災害
補償等組合規約の変更

意見書を提出しました

第2回定例会で意見書4件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。(内容省略)

- 住民の安全・安心を支える「国の出先機関」の拡充を求め、「公務の民営化・独立行政法人化・業務委託化」に反対する意見書
提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣
- 地方財政の充実・強化を求める意見書
提出先 内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、内閣府特命担当大臣(経済財政政策担当)、経済産業大臣
- 義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2015年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書
提出先 内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣
- 特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書
提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、防衛大臣

人事

●任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員の選任について、近藤良信さん（新町）を選任することに同意しました。

承認

●町有地の処分についての専決処分の承認を求めることについて

報告

●厚沢部町一般会計繰越明許費の繰越

平成25年度に予算措置された緊急雇用創出推進事業（地域人づくり事業分）の986万1千円、農業基盤整備促進事業の1億110万円、道営中山間地域総合整備事業の1311万円、新町市街地線交付金事業の1238万7千円、消防デジタル無線整備事業の4846万1千円を平成26年度に執行するものです。

推薦

●厚沢部町農業委員会委員の推薦

農業委員会委員の任期満了に伴い、議会が次の2名を推薦しました。

佐藤 美登子氏（上里）
吉田 藍氏（当路）

議員派遣

●議員研修会（道議長会主催）及び行政視察

目的 分権時代に対応した議会の活性化及び議員の資質向上を図るとともに、学校等における給食施設の運営管理について視察し、今後の行政推進の参考とする。

場所 札幌市、寿都町
期間 7月3日～4日
議員 全議員

●損害賠償の専決処分の報告

質問 1

消防団の組織と団員の待遇について
加藤古志男 議員

広域行政組合基準に合わせ
決めている
渋田町長



加藤議員

一般質問

～聞いてみたい、こんなこと～

- 問
- ① 厚沢部町消防団の定数と編成配置は。
 - ② 団員の報酬は。
 - ③ 2013年度の非常備消防費の地方交付税単価は。
 - ④ 団員が個人的に支出しているものは。
- 答
- ① 定数と現数は、本団が定数3に対し現数3、本団の下部組織である分団ごとに第1分団定数37に対し現数35、第2分団定数33に対し現数29、第3分団定数48に対し現数40となっており、総定数121名に対し107名で88.4%の充足率です。
 - ② 檜山広域行政組合の条例により団長75,000円、副団長61,500円、分団長43,000円、副分団長38,000円、部長31,500円、班長29,500円

円、団員28,500円と定められています。

③ 団長82,500円、副団長69,000円、分団長50,500円、副分団長45,500円、部長・班長37,000円、団員36,500円となっています。

④ 福祉共済の年額掛金3,000円と福祉厚生事業負担金8000円のうち2000円が個人負担となっています。



平成25年6月16日開催 第61回檜山管内消防総合訓練大会

質問 2 就学援助制度について

問 昨年、国の生活保護基準が見直され、それに伴った各自治体の対応が注目されています。当町では

① 認定基準が下がったことにより援助を受けられなくなった子どもはいませんか。

② 国は消費増税の影響緩和策として支給単価を2・8%上乘せしました。学用品費等の費用を上乘せしていますか。

消費増税に 合わせ増額

答 ①当町は見直し前の基準で実施しているため、援助を受けられなくなった児童生徒はいません。

②消費増税に合わせ26年度から学用品、入学準備等の支給額を増額しています。

質問 1

少子化への具体策は

下川部洋伸 議員

独自の子育て支援策を強く意識して協議

渋田 町長



下川部議員

問 当町の人口が20年後には、現在の半分になる予測がされており、このままでは町が消滅してしまうと危惧するところであり、今までの子育て支援事業の成果、また今後の思い切った具体策は。

答 子育て支援事業の成果ですが、過去2年間の実績を比較すると、保育料助成が71人から75人、結婚祝い金は7件から10件、誕生祝い金は21件から24件、出生人数も23人から25人に増えており、着実に成果につながっていると判断しています。また、新たな対策を強く意識しながら、今後は父母の方々と懇談し、要望

質問 2 町営住宅、教職員住宅について

等を聞き取り調査しながら進めていきたい。

問 昨年まで住宅建設を進めており、現在、居住可能な築年数は、昭和54年以降に建て



平成24年10月竣工 鶉町公営住宅

まちの議会を 傍聴してみませんか

町政はあなたのために
次の定例会は9月3日（水）からです。

《一般質問開始予定：3日 午前10時20分頃～》

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入するだけです。

予定を繰り上げて 進めたい

られた300戸で全て満室と聞いています。また、4月の応募状況が新町F団地1戸に9件、緑町1戸に4件と応募者が多いことから、町民のニーズに応えるためにも、計画を急ぐ必要があるのでは。

答 当初計画では、28年度の実施を予定していましたが、現状の応募者の実態を考慮し、国の補助事業の採択が可能であれば、次年度に繰り上げて建設を進めていきたい。

表彰

北海道町村議会議長会 から自治功勞表彰

小野則昭議員、伊藤克博議員が北海道町村議会議長会から、町議会議員として15年以上にわたり地方自治の振興・発展に貢献した功績により表彰されたもので、6月定例会の冒頭、鈴木議長から伝達されました。



自治功勞表彰を授与された小野議員（左）、伊藤議員（右）（6月17日）

委員会活動

町議会に設置されている総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会では、今年度の所管事務調査の内容を次のとおり決定し、7月から調査を開始しています。

○総務文教常任委員会

- ・太鼓山公園及び太鼓山スキー場の整備状況と学校におけるスキー指導の実態について

- ・空き家・廃屋の実態と対策について

- ・（産業厚生常任委員会と合同調査）

- ・学校のトイレ改修状況と付帯施設管理状況並びに学校給食の実態について

- ・公共施設老朽化の状況について

- ・旧滝野小学校の利用実態について

- ・オートキャンプ場の環境整備について

- ・ドクターヘリに関する取組みについて

- ・中学校の統合について

- ・（産業厚生常任委員会と合同調査）

○産業厚生常任委員会

- ・国保病院の運営状況及び今後の体制について

- ・保育所の管理運営及び施設の現状について

- ・中館地区上水道管の現況について

- ・町有林及び新設林道の管理状況について

- ・農林商工業における花嫁対策について

- ・うずら温泉チップボイラーの稼働状況について

- ・（総務文教常任委員会と合同調査）

- ・上里老人福祉センターの今後について

- ・（総務文教常任委員会と合同調査）

委員会活動状況

月日	委員会名	出席委員数	活動内容
6	12 議会運営委員会	4名	第2回定例会について
	17 議会改革推進特別委員会	11名	正副委員長の選任について
	18 議会改革推進特別委員会	11名	議会改革に関する調査・研究
	18 総務文教常任委員会	6名	所管事務調査について
	18 産業厚生常任委員会	5名	所管事務調査について
7	10 産業厚生常任委員会	5名	第1回所管事務調査
	14 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.80号の編集について
	24 議会改革推進特別委員会	11名	議会改革に関する調査・研究
	31 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.80号の編集について
8	11 総務文教常任委員会	6名	第1回所管事務調査
	11 産業厚生常任委員会	5名	第2回所管事務調査
	18 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.80号の編集について
	26 議会改革推進特別委員会	11名	議会改革に関する調査・研究
	29 議会運営委員会	4名	第3回定例会について

議長発議により 議会改革推進特別委員会を設置

【設置の趣旨】

厚沢部町議会が地方分権に対応でき、自主性・自立性を発揮するための方策や課題について、様々な分野から必要な事項を調査・研究し、議会改革を積極的に推進する必要があるため、議長を除く全員で構成する「議会改革推進特別委員会」を設置し、これに付託の上、調査・研究が終了するまで閉会中の継続調査としました。

【活動状況】

（第1回）正・副委員長の互選

特別委員会の設置が決定された後、委員会条例第8条第2項の規定に基づき、第1回委員会を開催し、正・副委員長の互選を行いました。

委員長 中山 俊勝

副委員長 加藤 古志男

（第2回）今後の委員会の進め方について

（第3回）議会基本条例に関する調査・研究

（第4回）議会基本条例の取組みについて研修（今金町議会）

編集後記

春の長期予報では、今年の夏は冷夏と言われていましたが猛暑日が続き、特に外で作業していた方々は、暑さで大変ご苦労されたことと思います。その作業中の話し言葉の中でよく方言がでてきます。普段聞いていても気にはならないんですが、ある知人の方から頂いた「八十余年のあゆみ」という本の中で、村の方言について書かれています。その中の方言と解説を読んでいくと、自分でも気付かずに話している言葉が方言になっているのがよくわかりました。中でも、なすき（おでこ）、まなぐ（目）、ほんだべー（そうだろう）、ずんぶだな（あんまりだ）、あいだら（あれなら）など、まだまだたくさんありました。「方言とは田舎言葉でなく、生きて働く生活語であって、民族の文化である。何も恥ずかしい言葉ではない。」と書かれておりますが、最近では年輩の方々の会話の中だけでは聞かれなくなってきたおり、方言が忘れられていくのはとても寂しい感じがします。

（ま）

議会広報編集特別委員会

委員長 高田 一弥

副委員長 浜塚 久好

委員 松村 松雄

委員 下川部洋伸